

令和8年度

神山中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基本的な学習習慣を身につけさせ、確かな学力を育成する。
- ②自らに必要な学びを意識させ、自己調整しながら主体的に学習に取り組む態度を育成する。

【各校の取組状況の把握について】

学力向上委員会を適宜開催し、取り組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な知識・技能の習得については、一定の成果が見られる。自主学習にも前向きに取り組む、努力する生徒が多く見られる。 ●学力が二極化しており、学習したことの定着や家庭学習の取り組みが不十分な生徒や、習得した知識・技能を活用することが苦手な生徒もいる。	・授業で習得した知識や技能を、既習のものとの結びつけ、他教科や総合的な学習の時間、実生活において活用している姿。	・ICT(タブレットドリル等)を活用し、個別最適化された家庭学習の充実を図る。 ・各教科において単元末テストを実施し、スモールステップでの知識・技能の定着を図る。 ・教員間で生徒の学習状況について共有し、基礎知識・技能の定着へ向けた有効な手立てを考える。 ・テスト期間には自主学習ノートコンテストとして、効果的なノート活用のモデル提示を行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中においては、積極的に自分の考えや意見を伝えようとする姿勢が見られ、主体的に学習に取り組むことができる。 ●自分の考えを正確に伝えるために、具体的な根拠を挙げたり、論理的な順序で説明したりすることに課題を感じる生徒も多い。	・自分の考えを論理的に整理し、多様な情報の中から必要なものを選び出して順序立てて伝える力を身につけており、相手に対して的確かつわかりやすく伝えている姿。	・各教科において資料や様々な情報を根拠として示し合い、筋道を立てて考えを深める対話的な授業に取り組む。 ・ICTを活用し、自分たちの考えや意見を共有したり、生成AIを効果的に取り入れ、アイデアをさらに広げたりするような場面を設定する。 ・縦割り班による合同学習において、話し合い活動を取り入れ、自分の考えや意見を深めていく場面を設定する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業規律を守って学習に取り組む、積極的に発言しようとする生徒が多く、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができる。また、テスト前には前向きに学習に取り組むことができる。 ●与えられた学習に取り組むことはできるが、自己調整しながら自分に必要な学習を進めていくことは苦手な生徒もいる。	・学習内容について振り返りを行い、その成果や課題を明確にし、自主学習ノート等を活用しながら、自己の学びを調整している姿。	・授業では、「めあて」の提示や「振り返り」を行い、学習への意識を高める。 ・テストや単元末テスト後の振り返りをさせ、自分の学習状況を客観的に把握させる。その際、目標設定に対する実際の取組・今後の目標と学習の調整についても考えさせる。			